

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高須 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

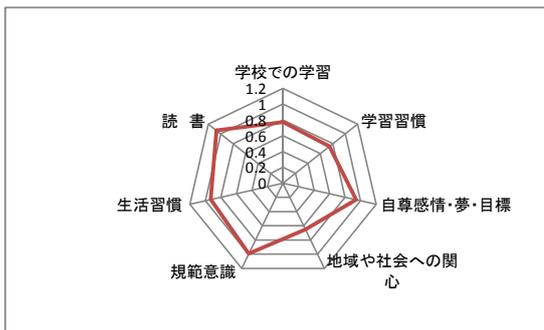
国語A	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、話すこと・聞くことの領域では全国よりも上回っている問題も見られた。 ・選択式よりも短答式の問題形式の方が正答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う問題では、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む問題や、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題では、特に正答率が低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っていて、無回答率が国語Aよりも高くなっている。 ・書く能力を問う問題に課題があり、目的や意図に応じて書く力を高めていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題では、比較的正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、引用して書いたり、必要な内容を整理して書いたりする問題では、特に正答率が低い。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っていて、全般的に基礎的な力を高めていく必要がある。 ・全国の分布と比較して、正答数の個人差が大きい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質の理解を問う問題では、比較的正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・商を分数で表す問題では、特に正答率が低く、無回答率も高い。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、全国との差は算数Aよりも小さい。 ・全般的に無回答率が高く、特に記述問題でその傾向が強い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用する問題では、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ問題では、特に正答率が低い。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・自分にはよいところがあると思う児童の割合が、比較的高い。児童の自尊感情が高まるような取組を続けていく。	
・読書が好きな児童が、全国よりも5ポイント以上高い。朝の読書活動や、学校図書館職員・図書ボランティアとの連携が効果を上げていると考える。	
・学校の宿題をしている児童は93%いるが、自分で計画を立てて勉強している児童が少ない。自主的に学習する態度を育てていく必要がある、家庭(保護者)とも連携していく。	
・朝食摂取率が全国よりも低い。食育の取組をさらに充実させ、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。	

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で、「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定した授業を確実に実施する。</li> <li>・「話し合う活動」において、6年間を見通した系統的・継続的な指導の充実を図る。</li> <li>・学力定着サポートシステムを活用し、既習事項の確実な定着を図る。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、小中9年間を見通した児童の家庭学習の習慣づけと保護者への啓発を行う。</li> <li>・「高須小よいこのきまり」を家庭に示し、家庭と連携して児童の規範意識を高めるよう努める。</li> <li>・食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。</li> </ul>
---